

第29回 那須IVR

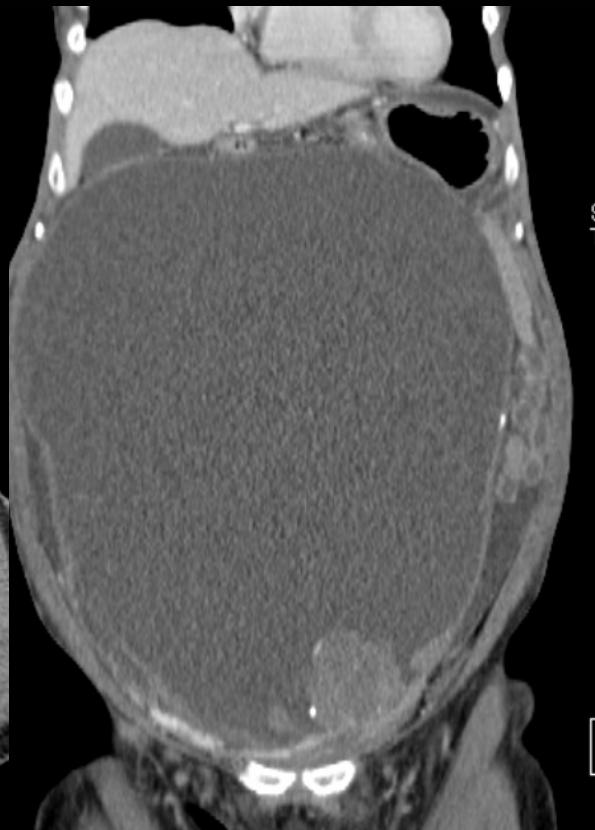
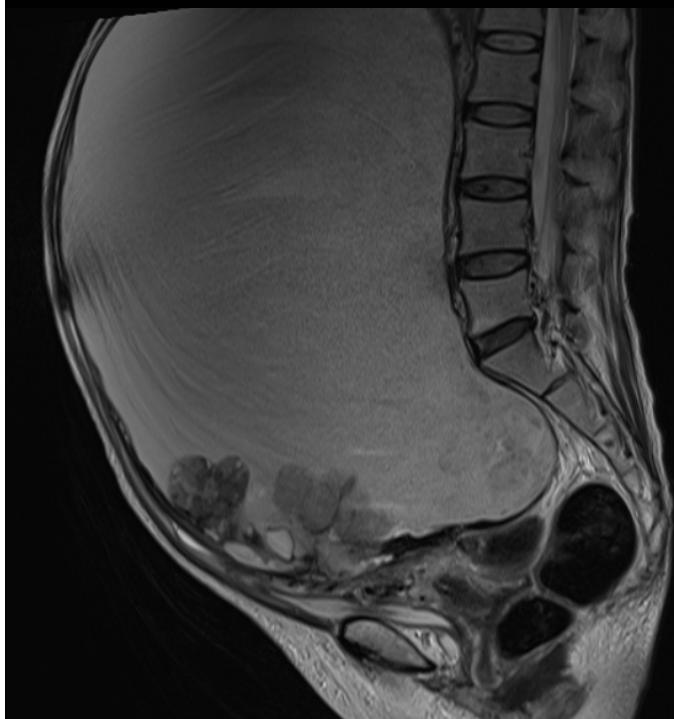
2010年5月15日

荏原病院 放射線科
菅原俊祐

症例: 62歳 女性

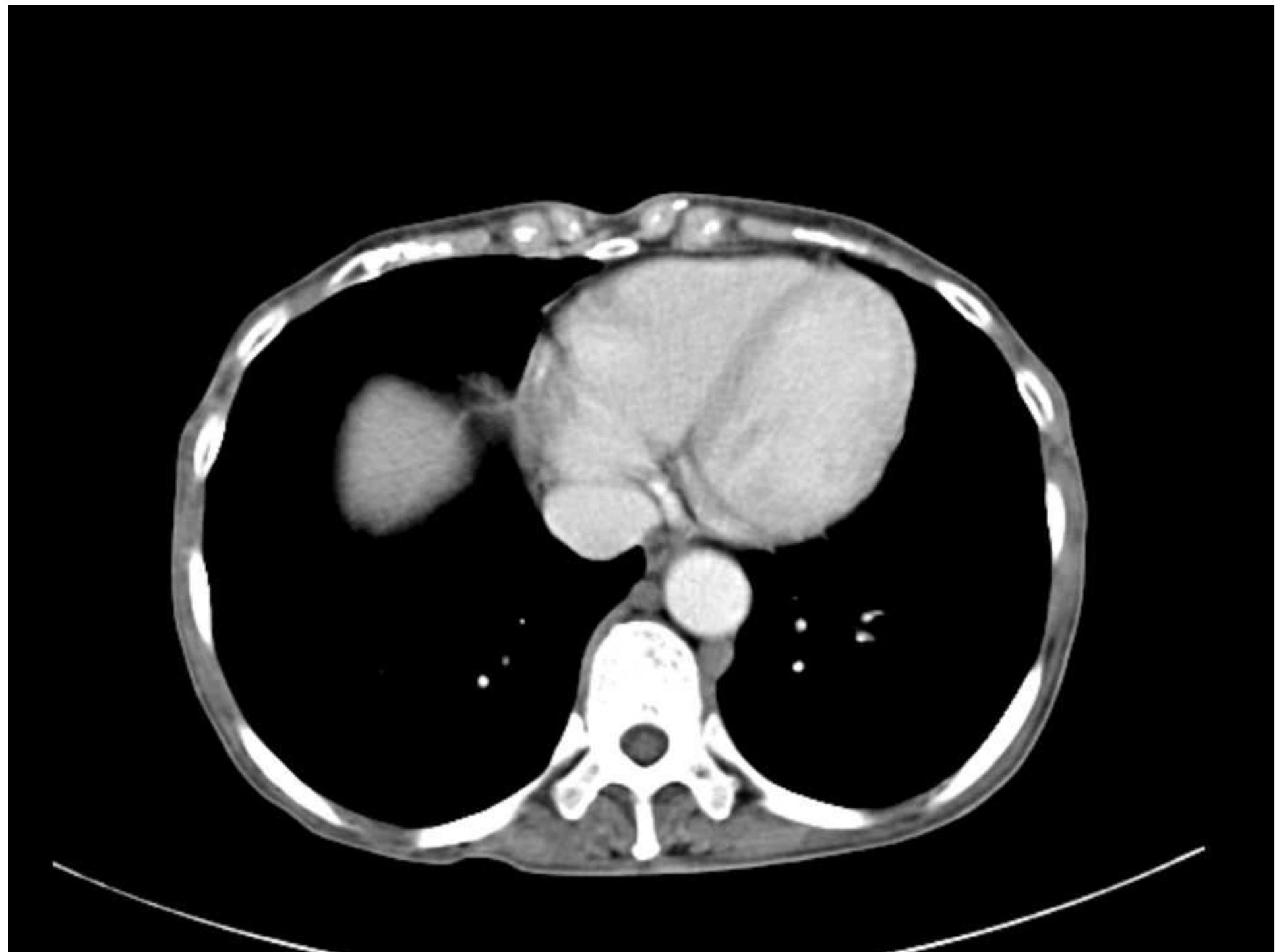
現病歴

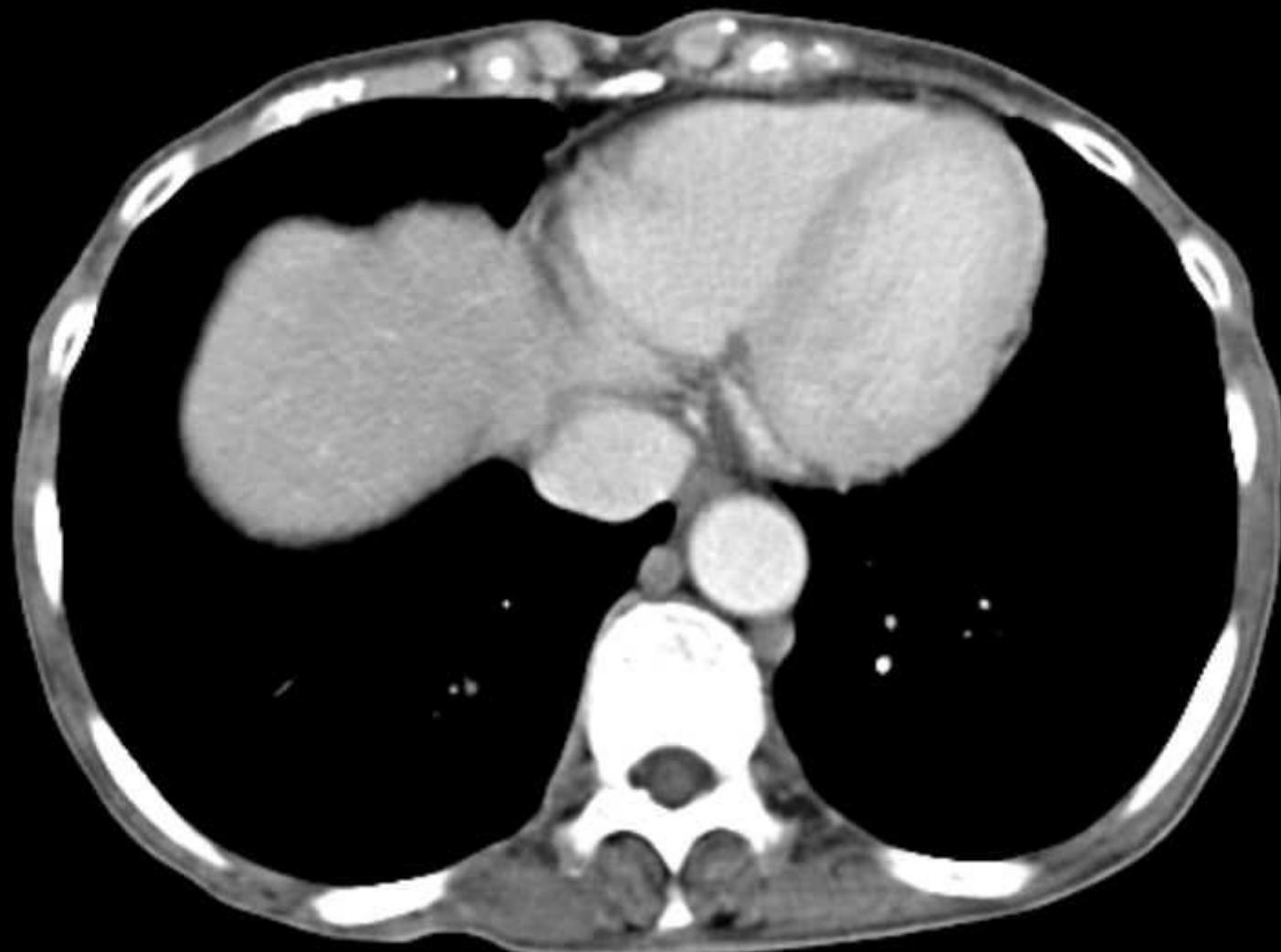
- 約1カ月前に、卵巣癌(endometrioid adenocarcinoma)摘出術を施行

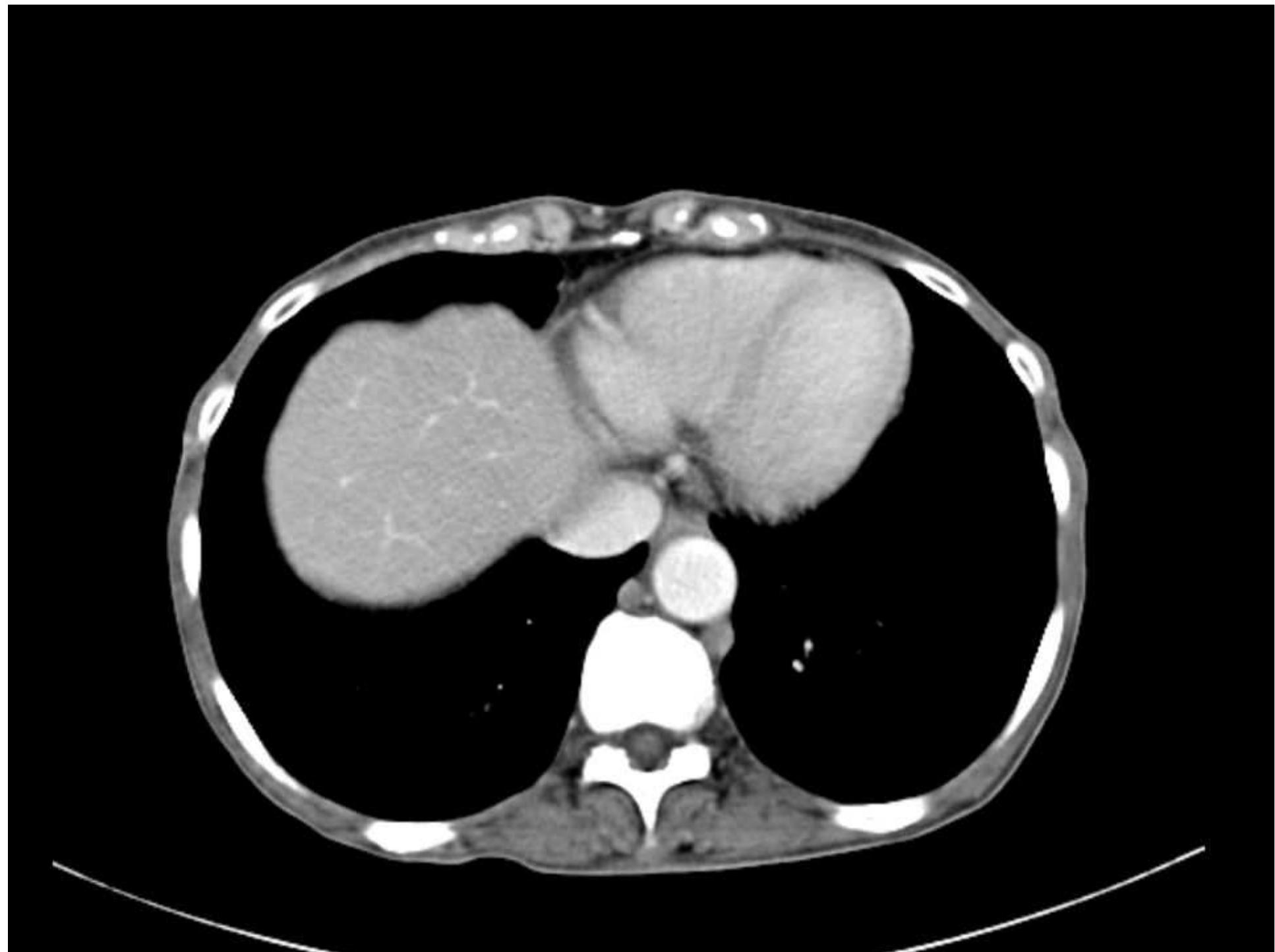


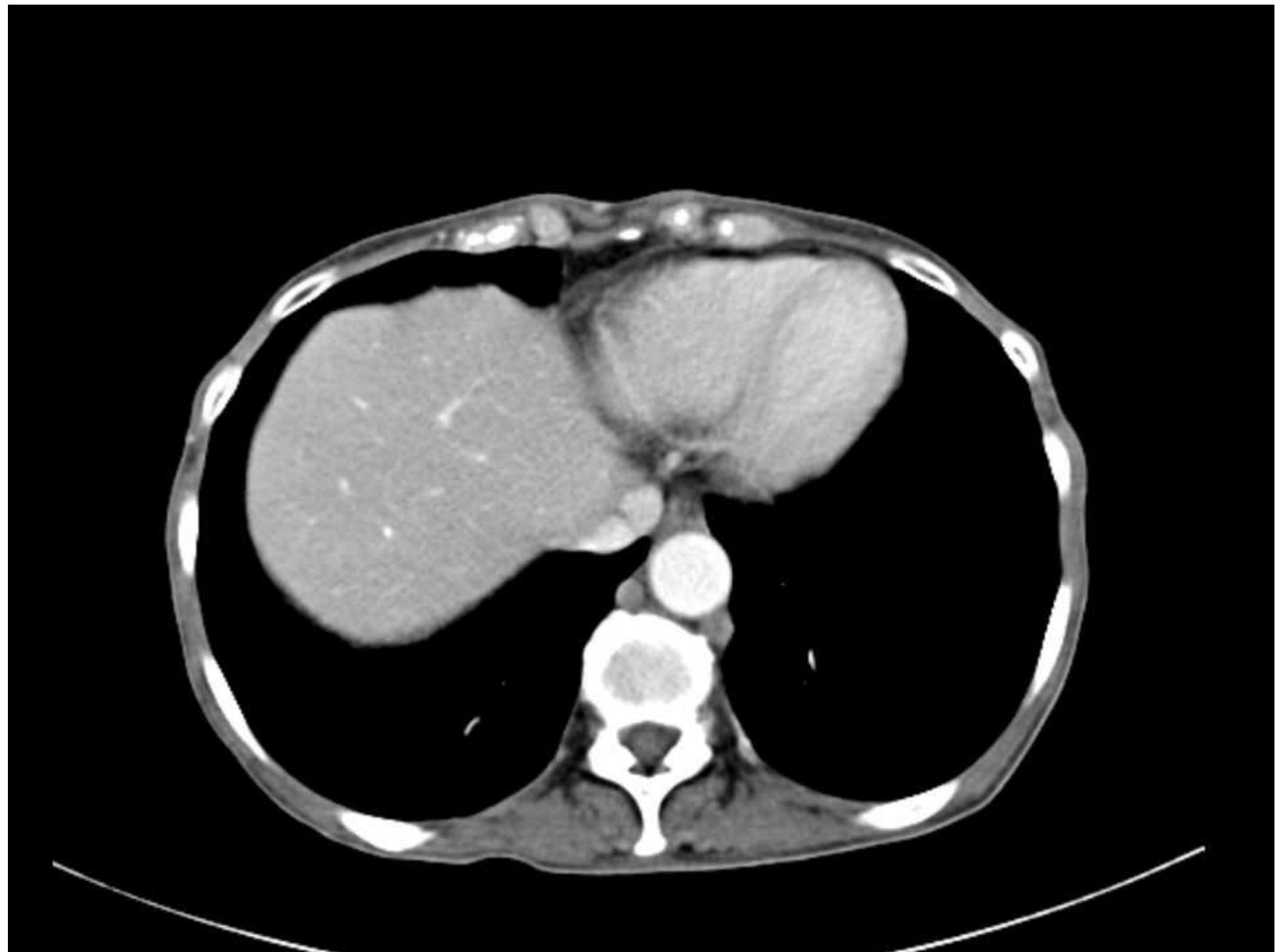
腹部造影CT

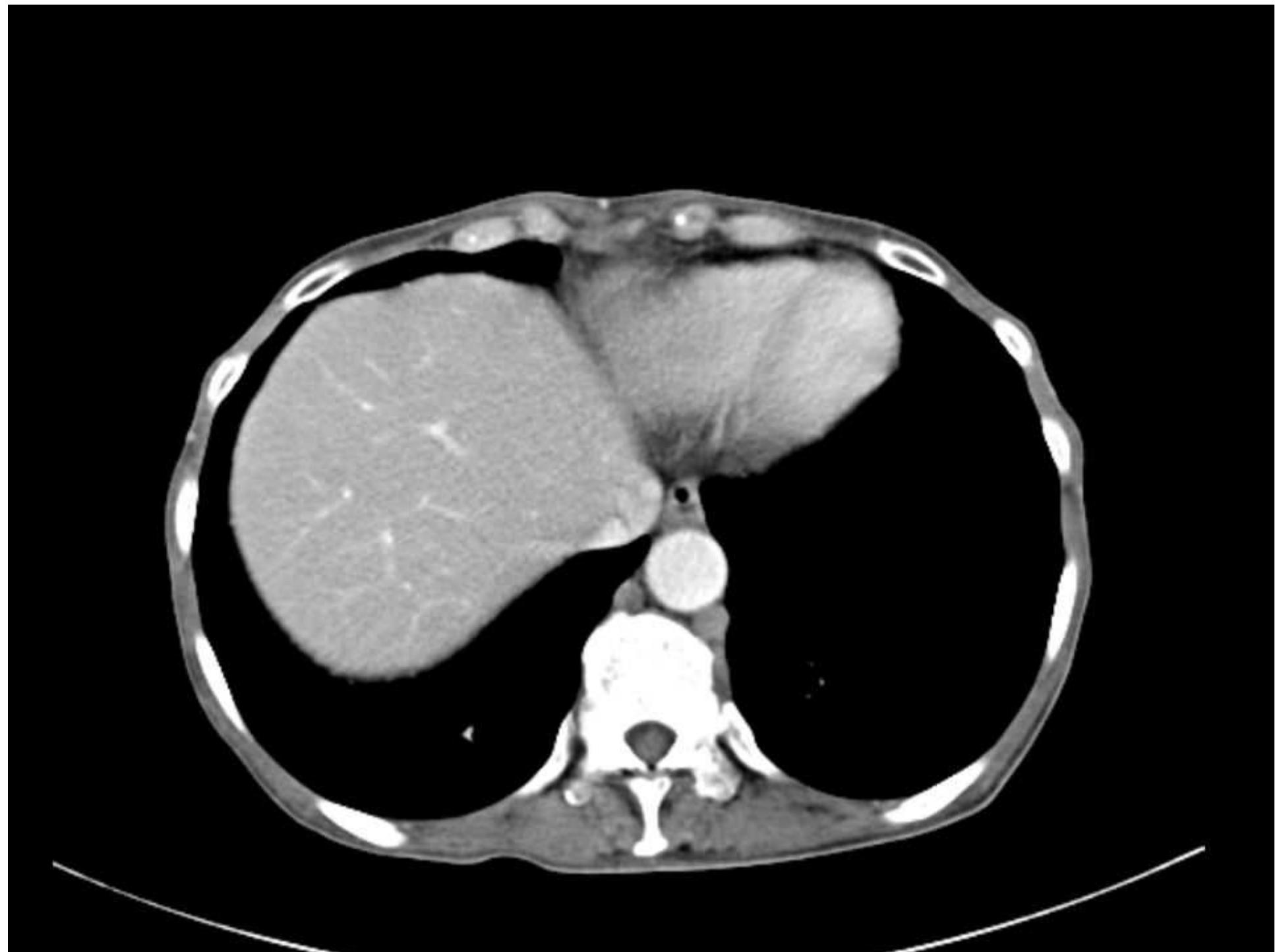


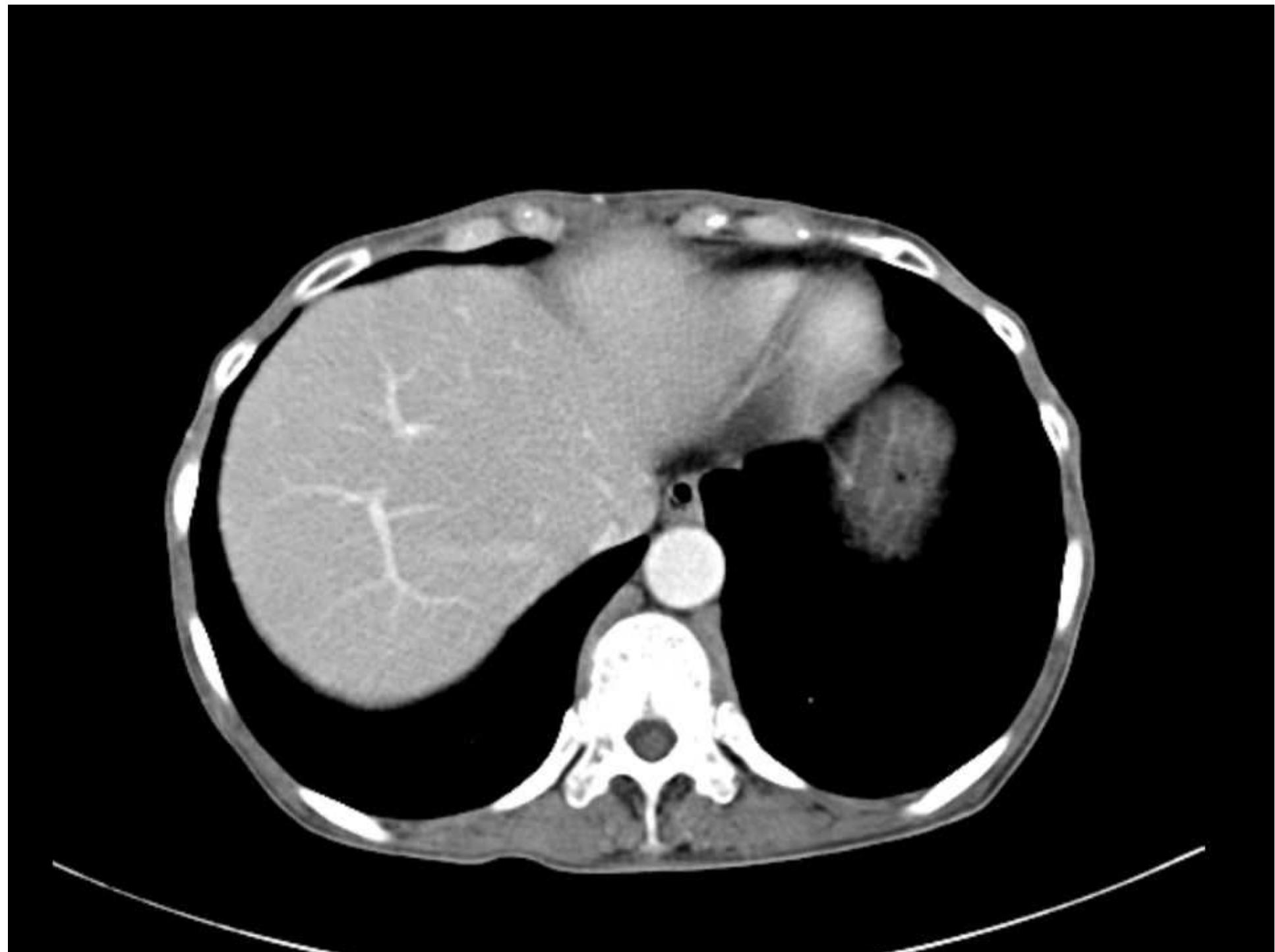






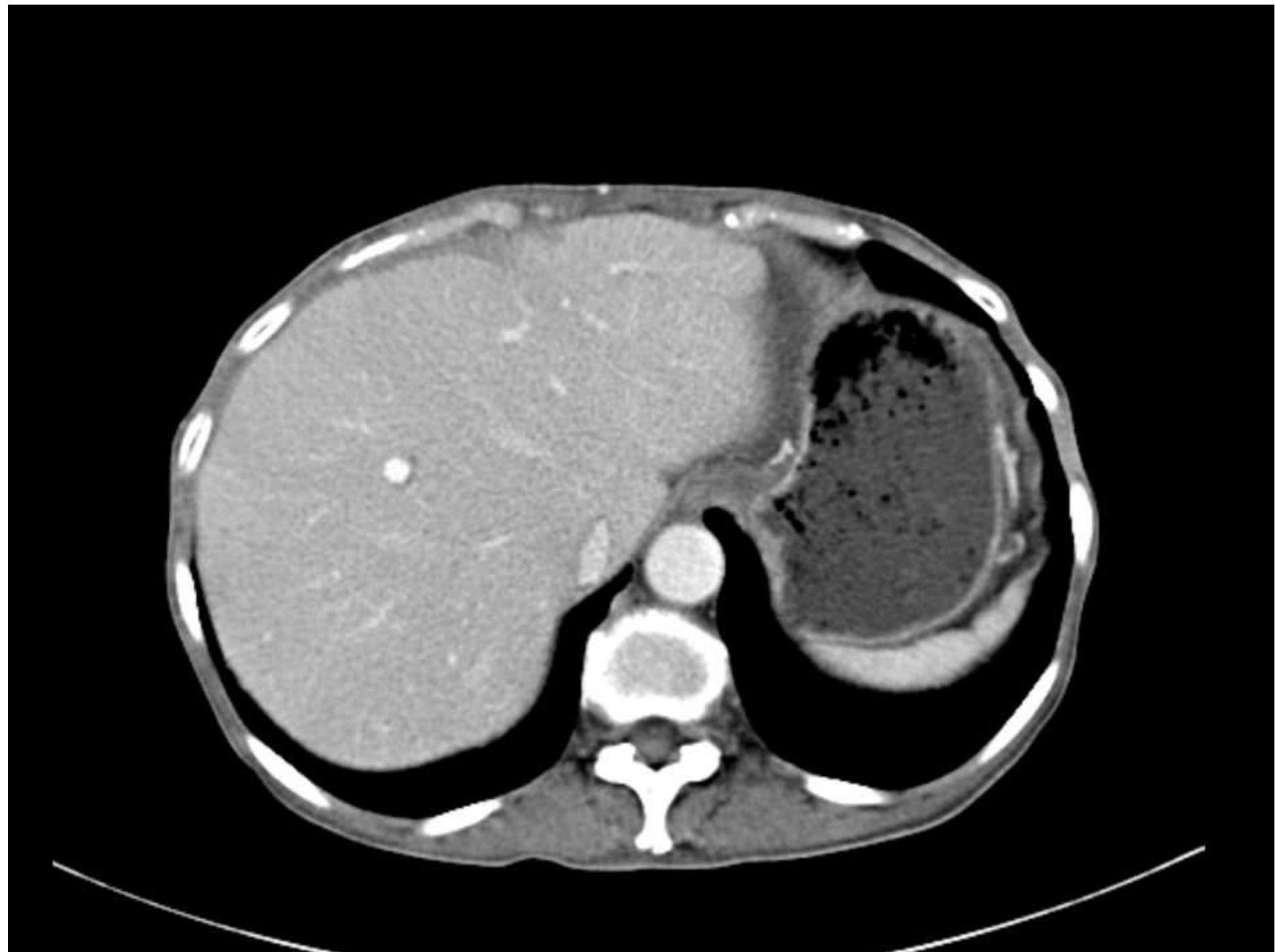
























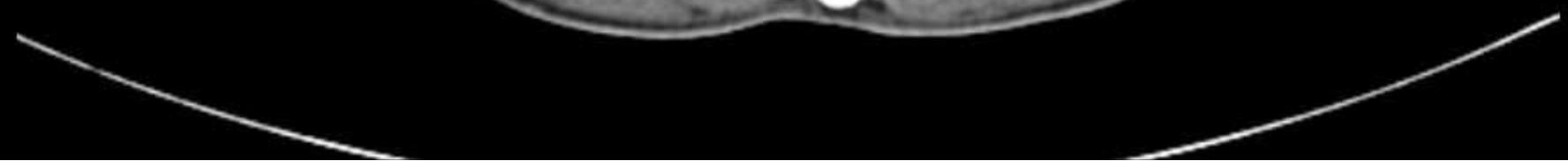








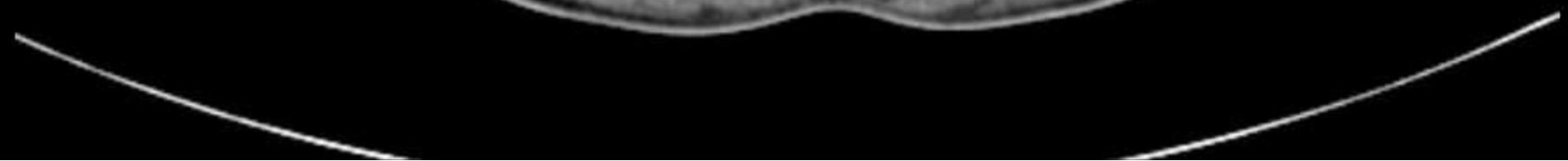


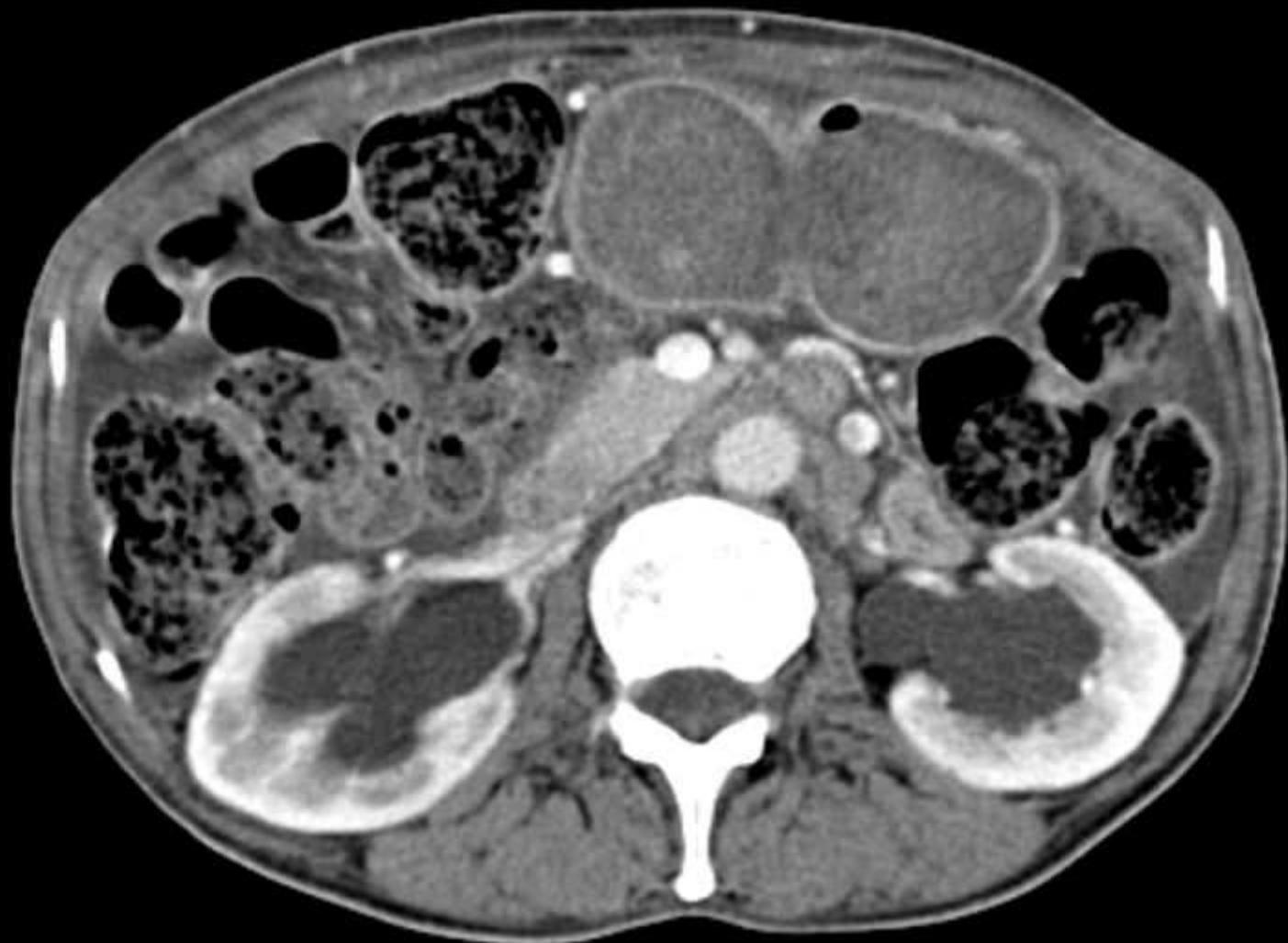


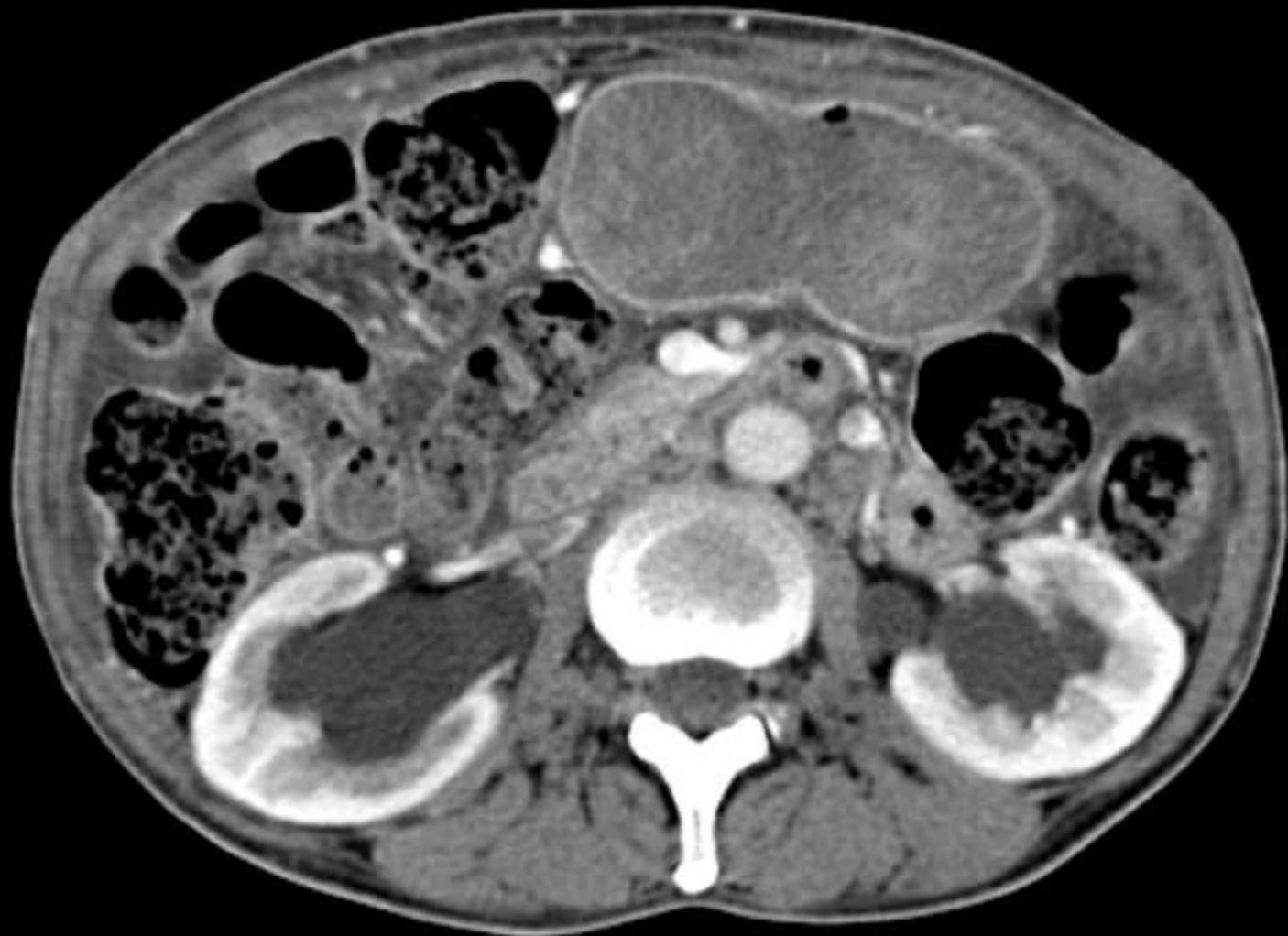


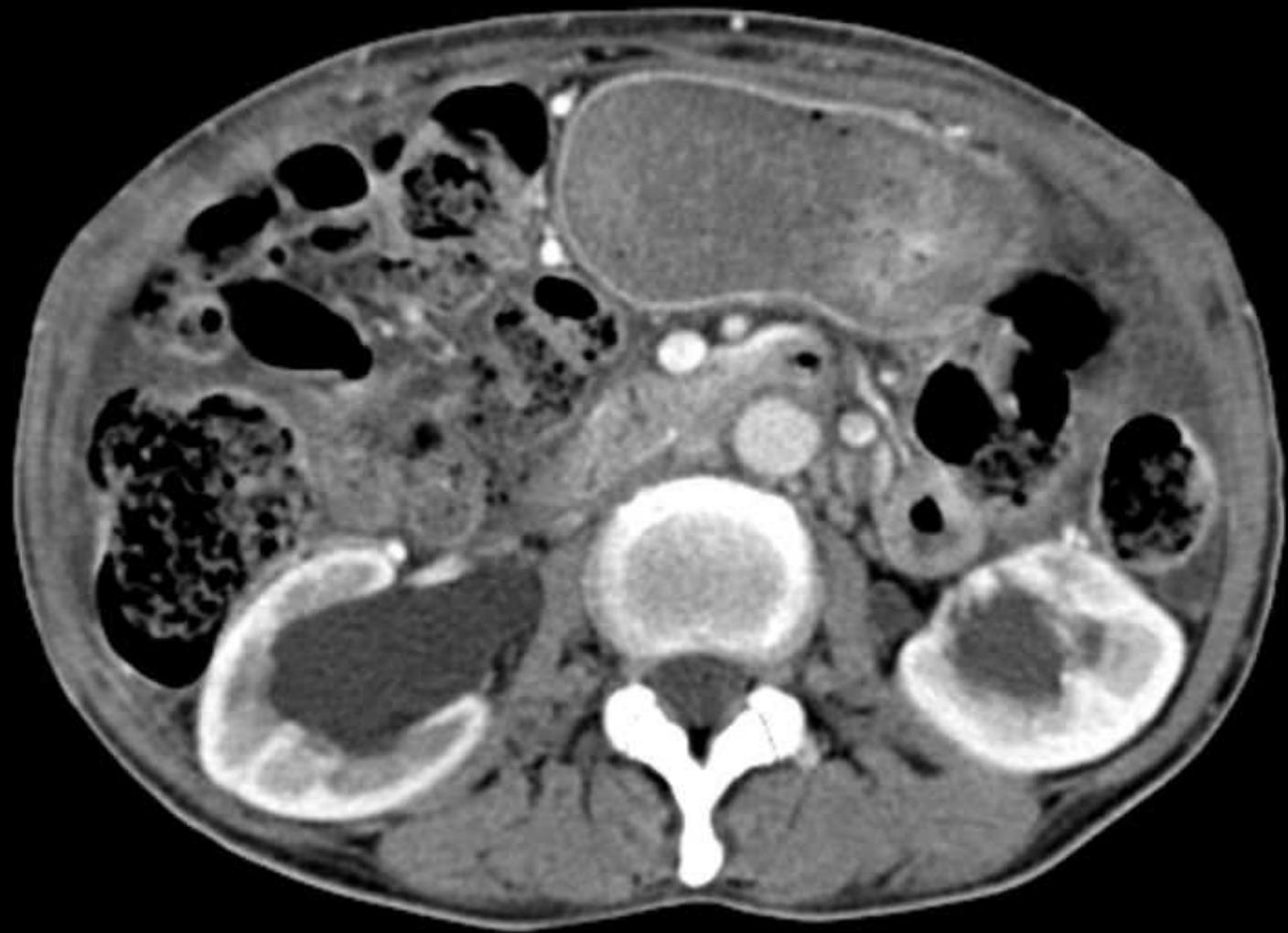








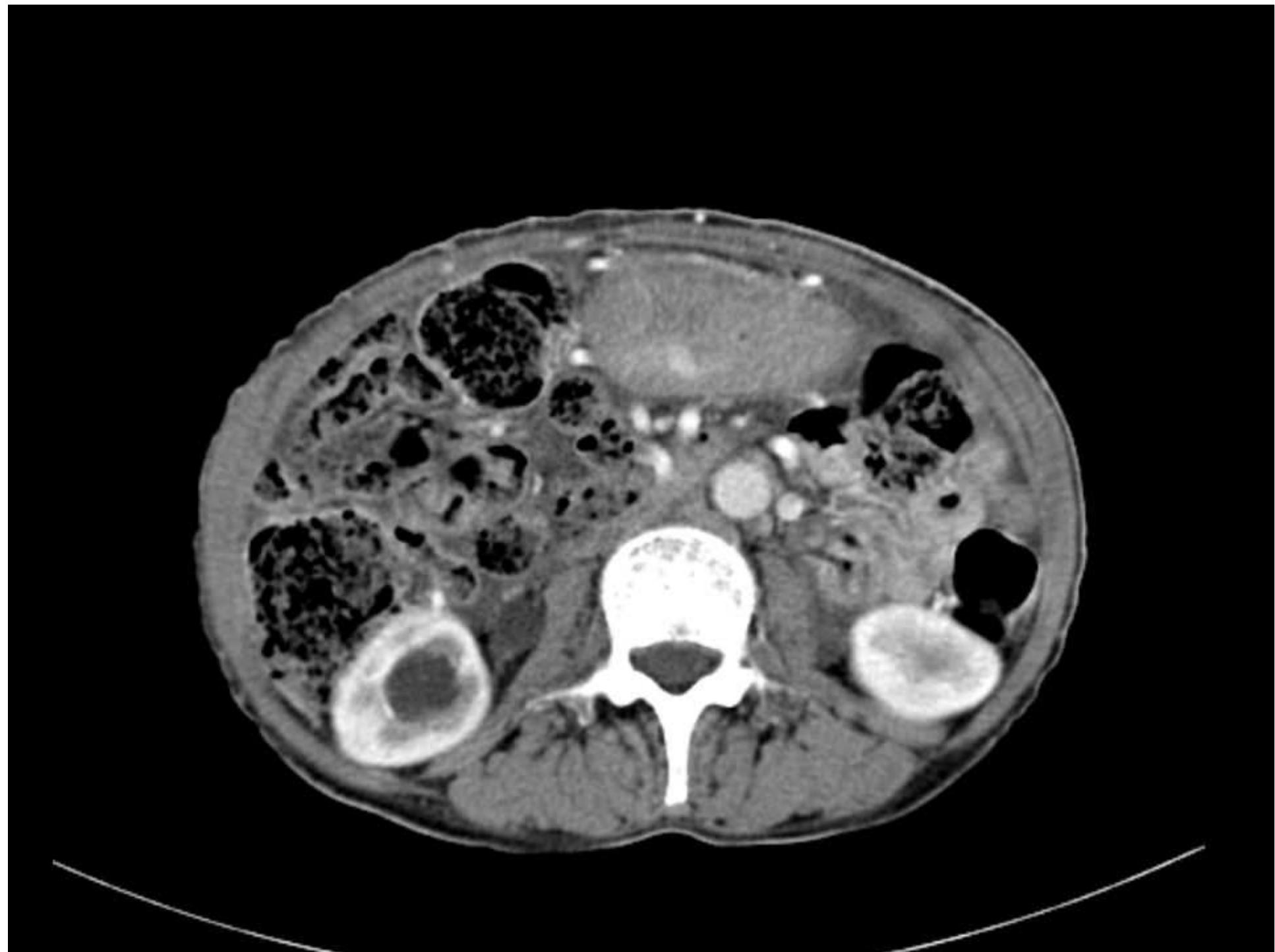


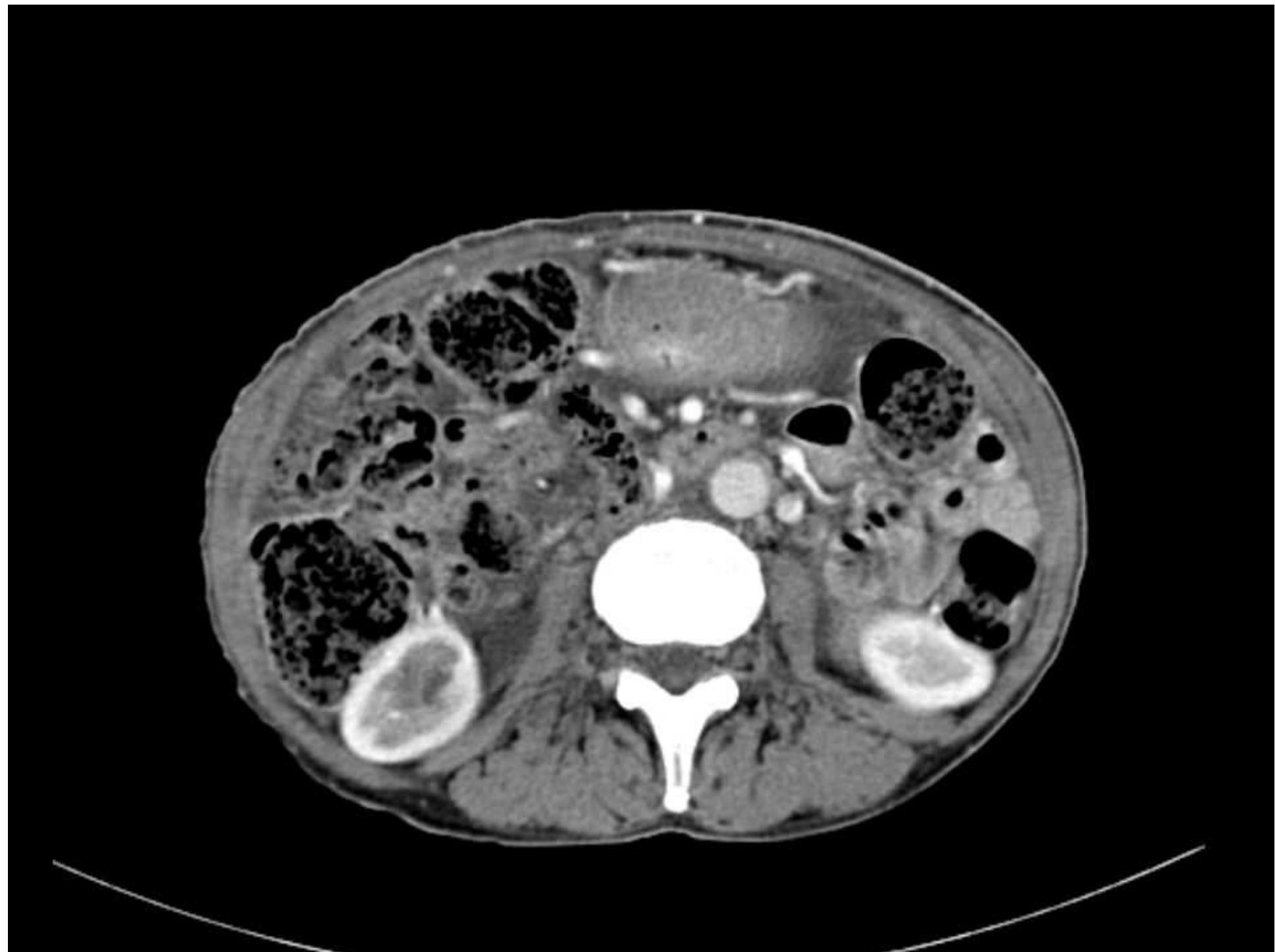


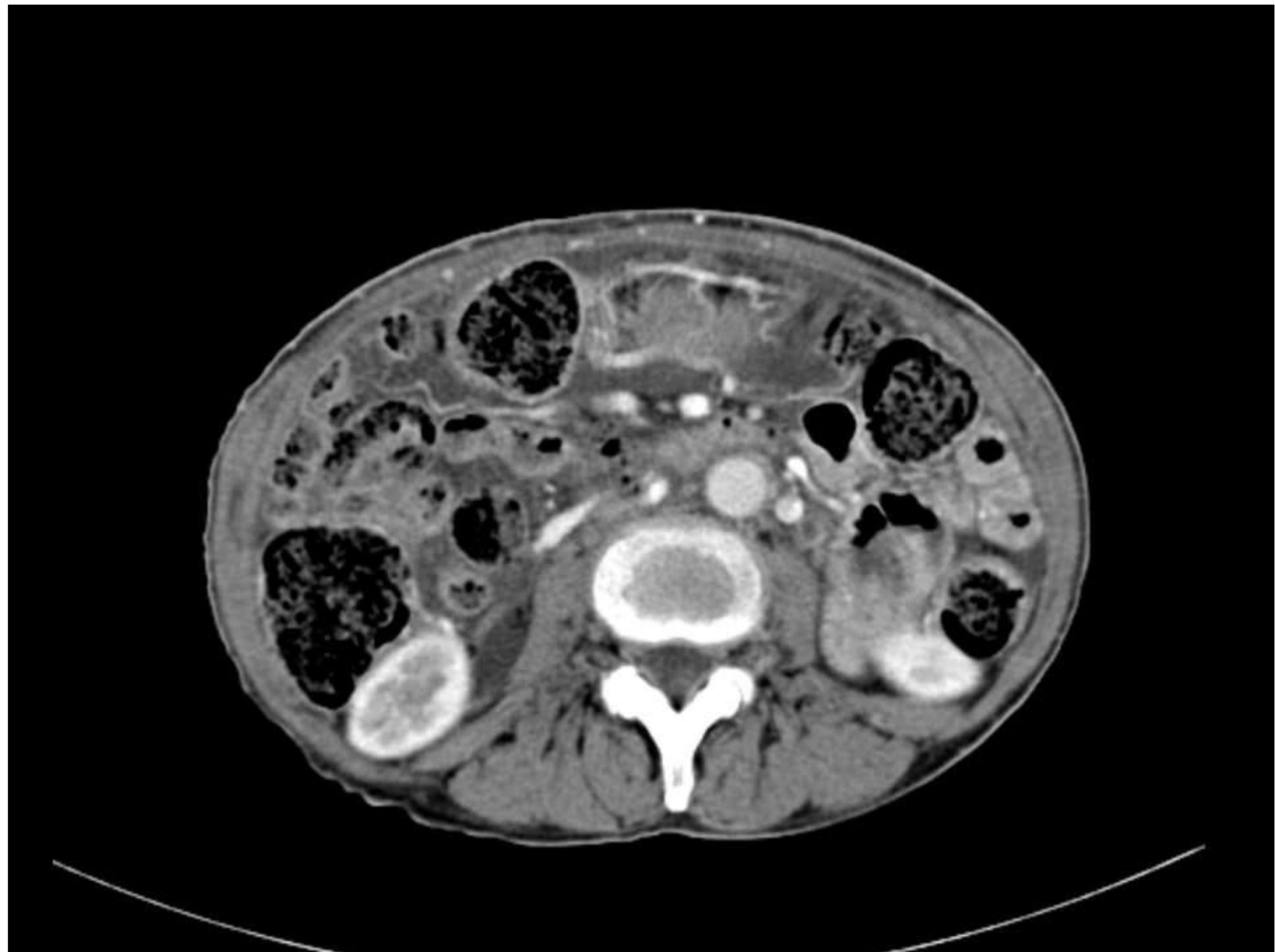






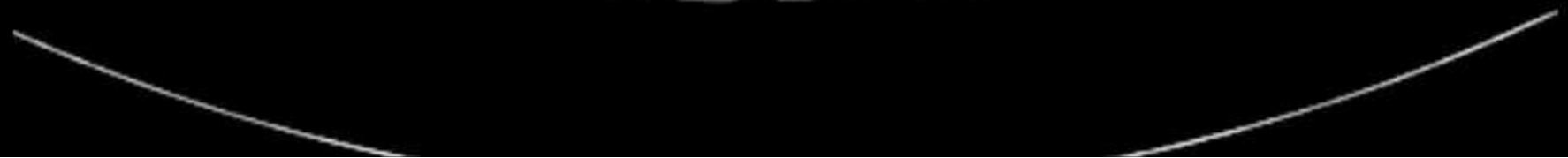




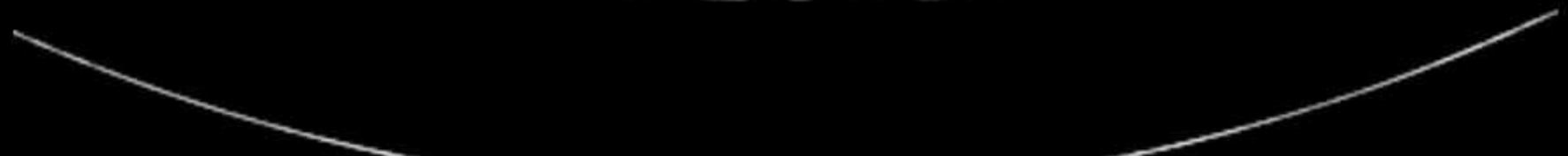














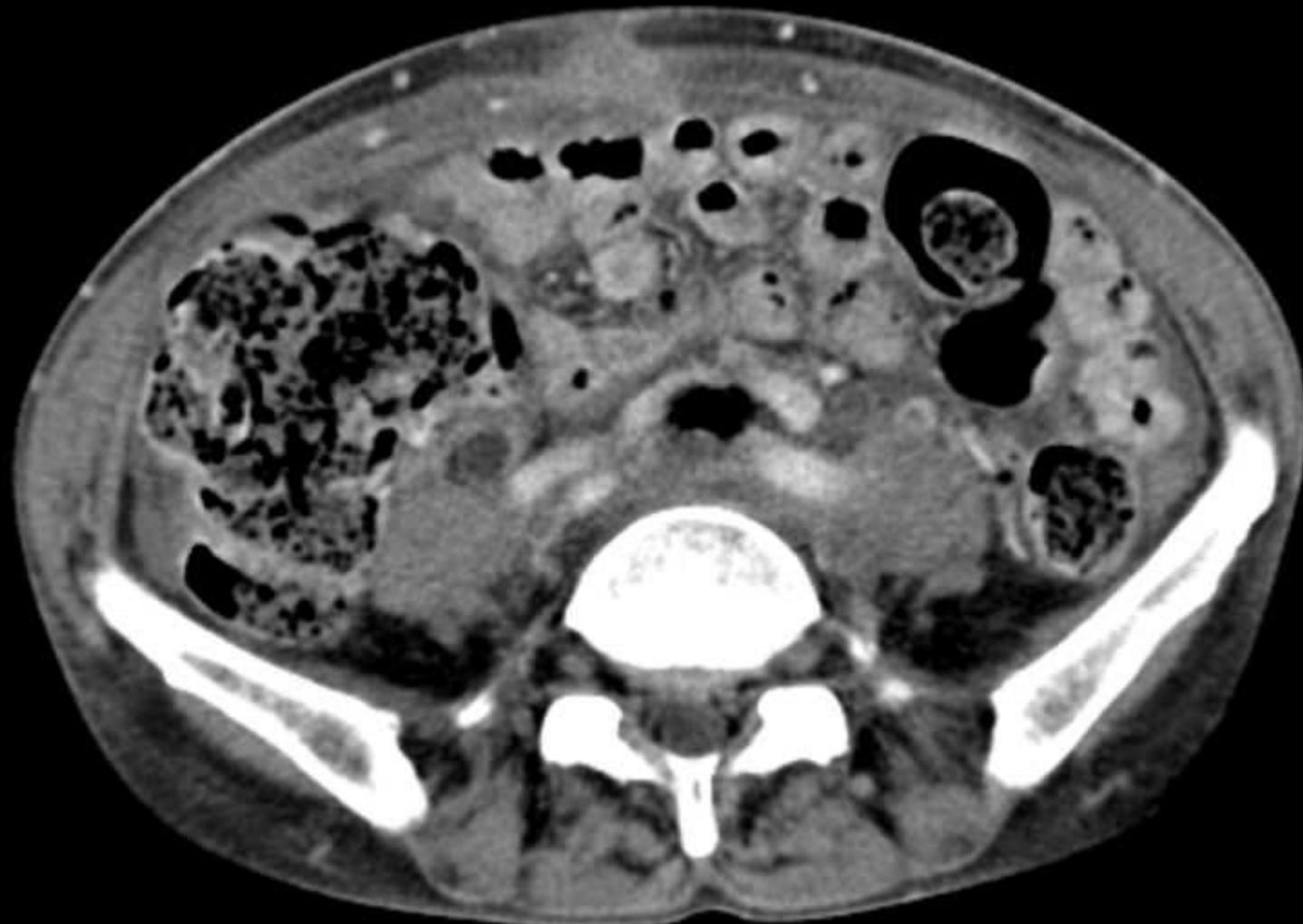




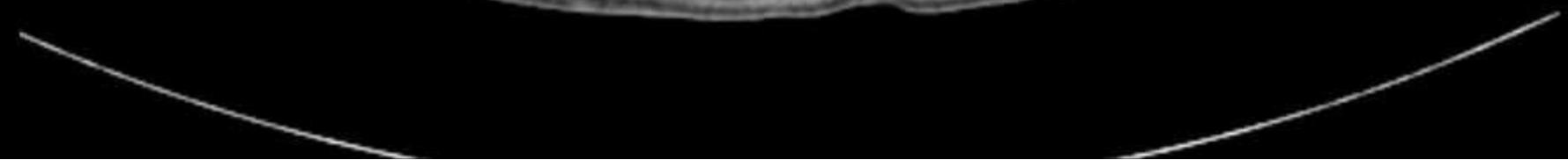
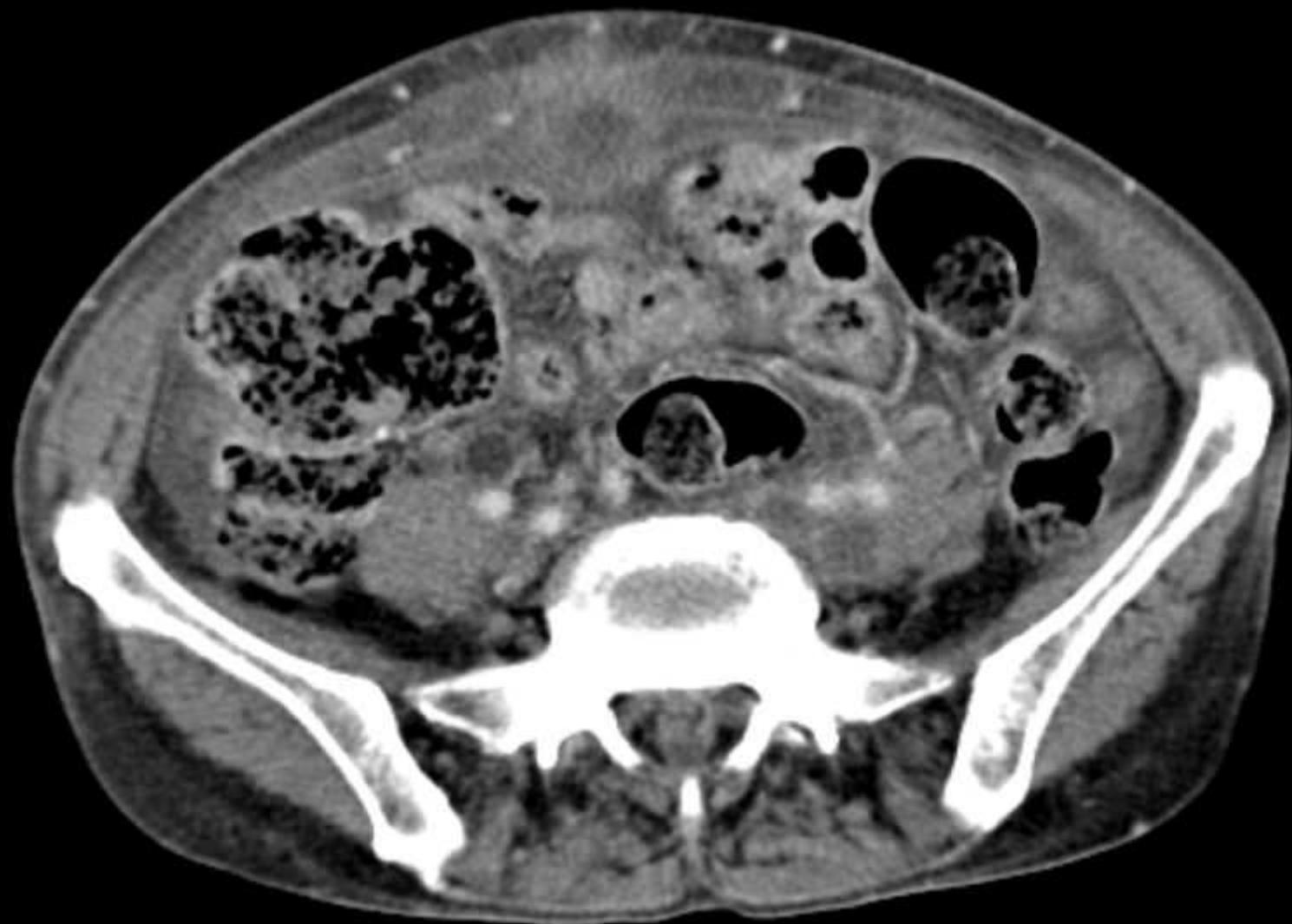


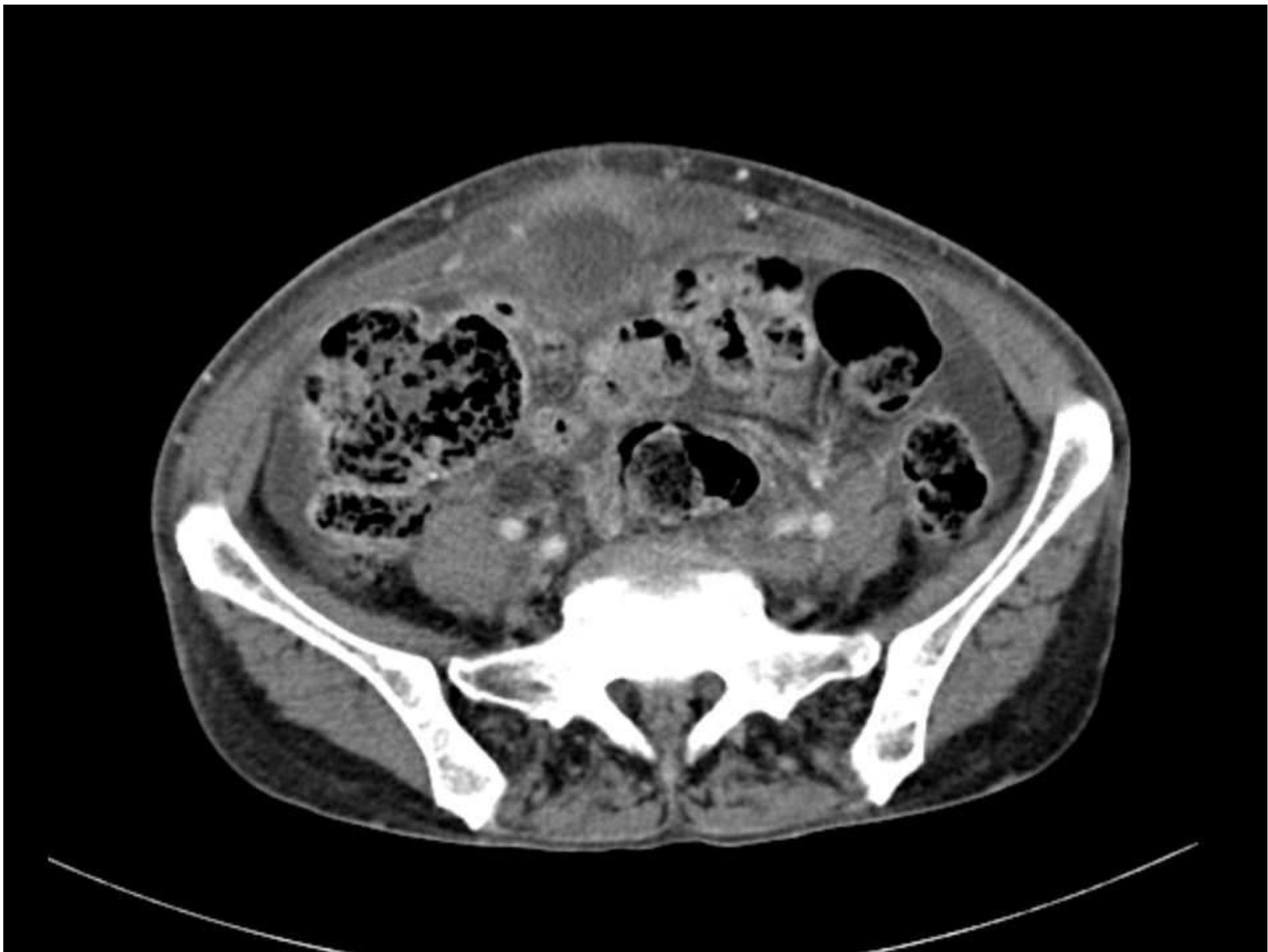




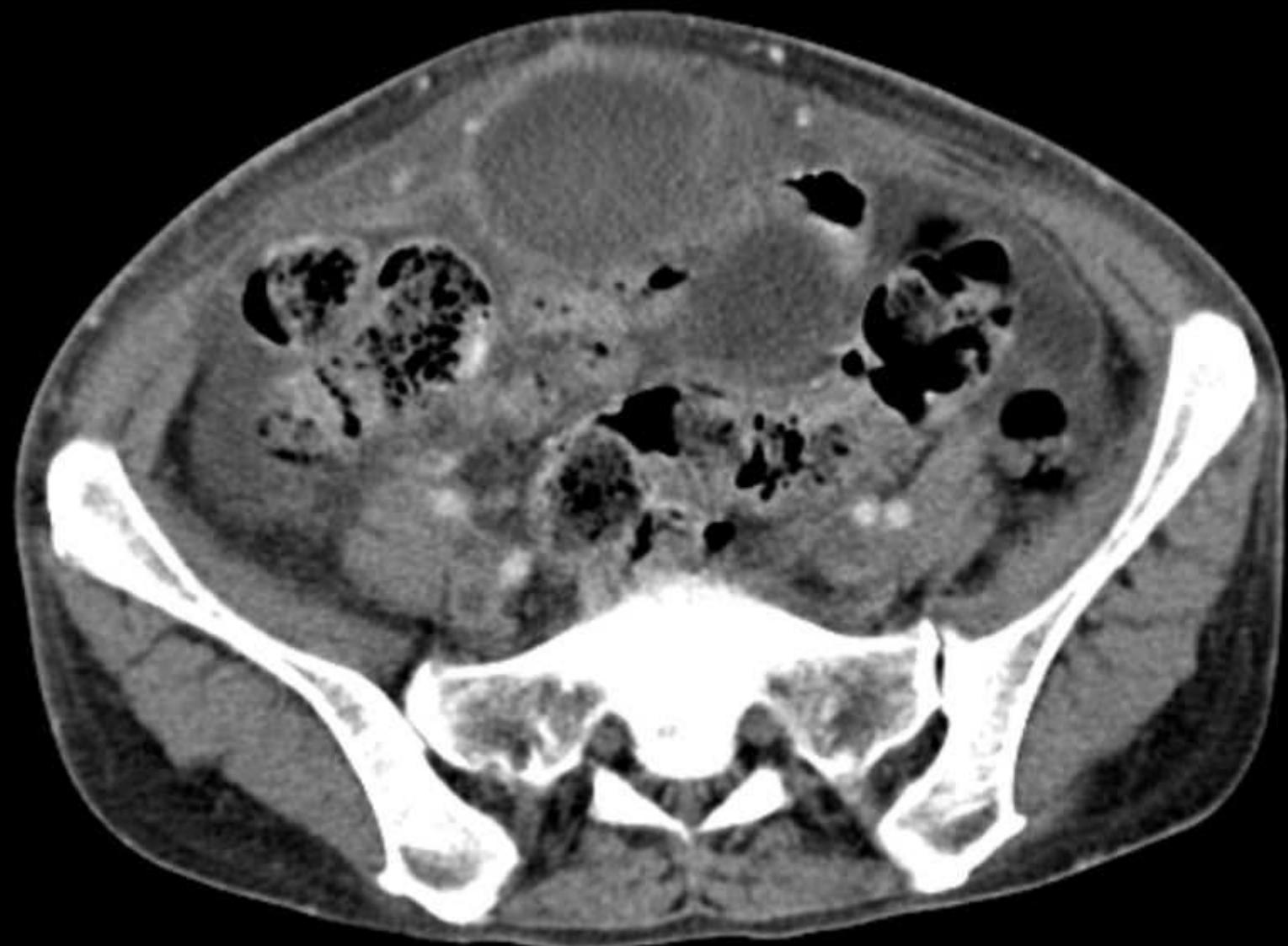




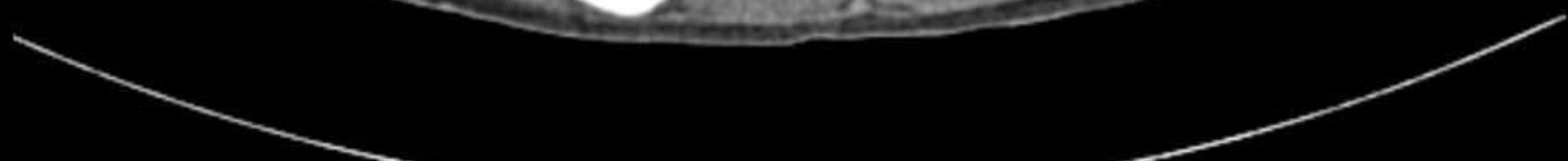
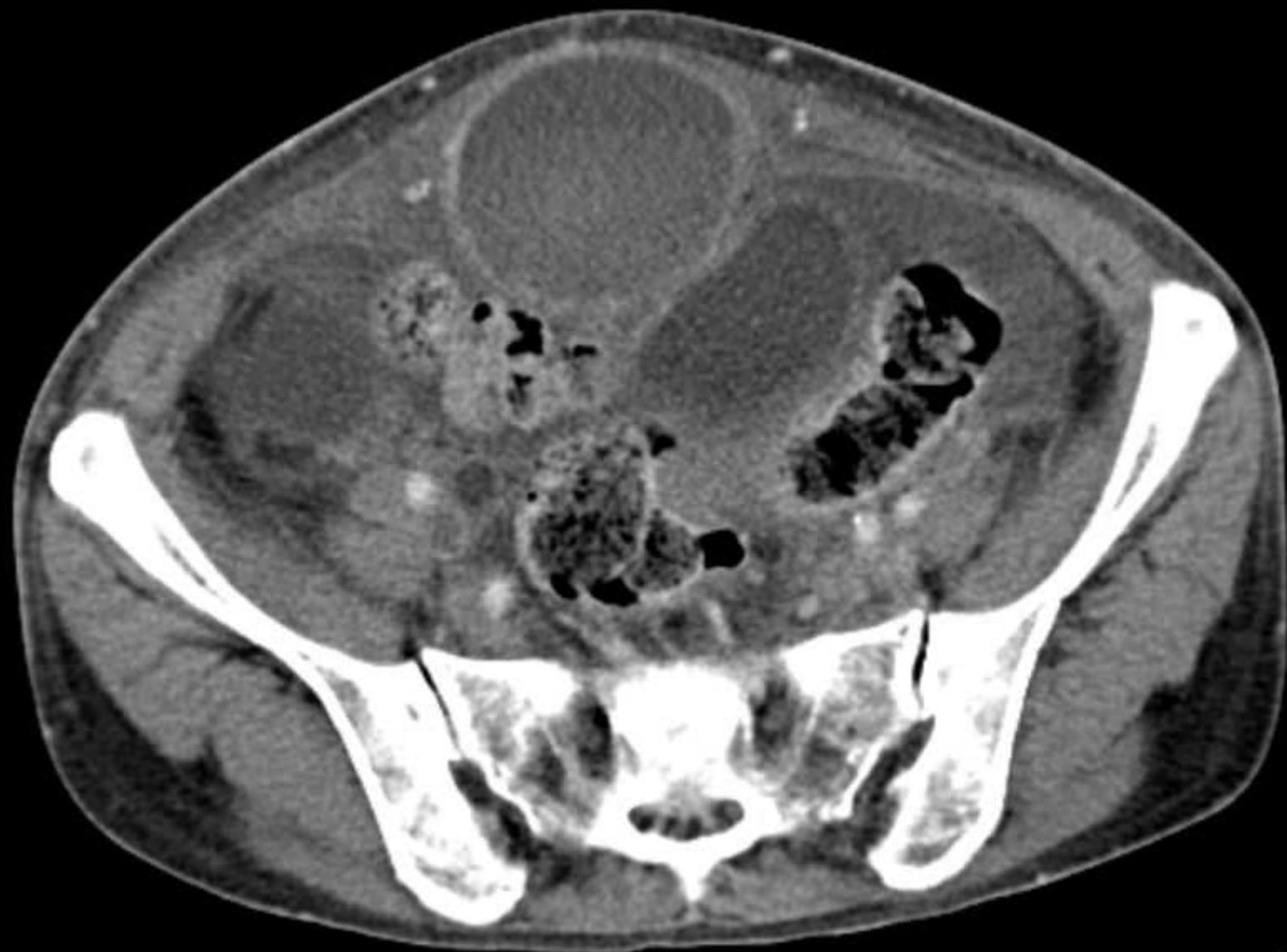




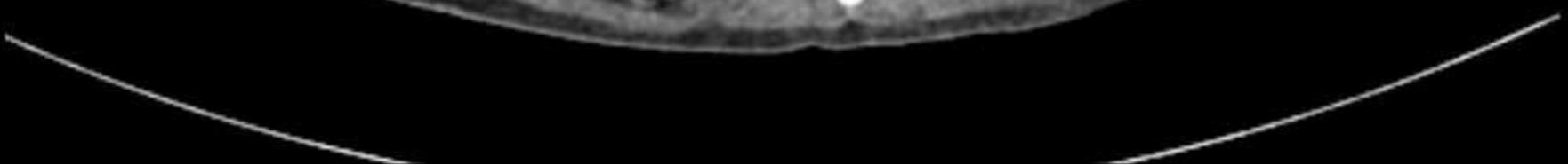






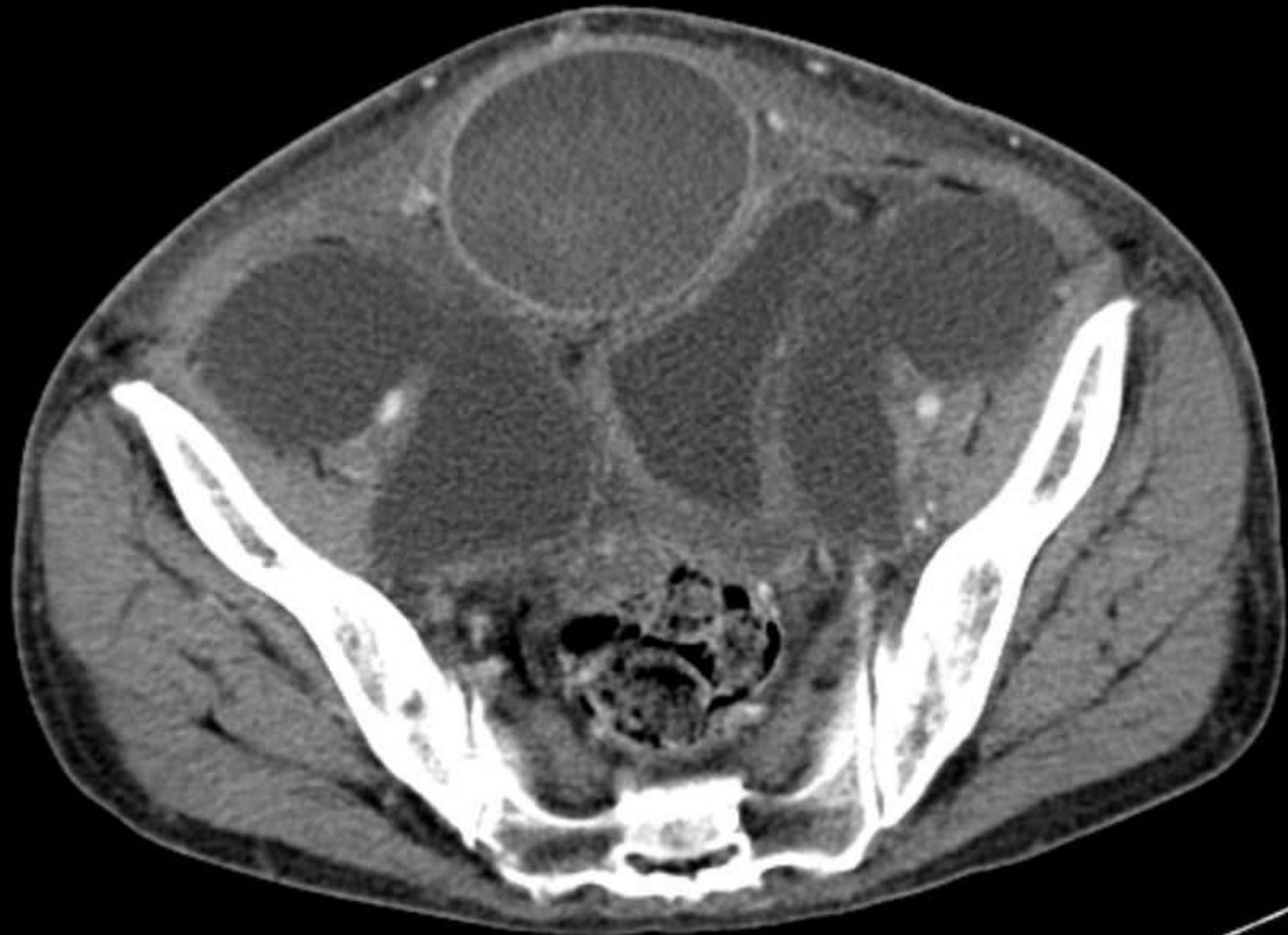
















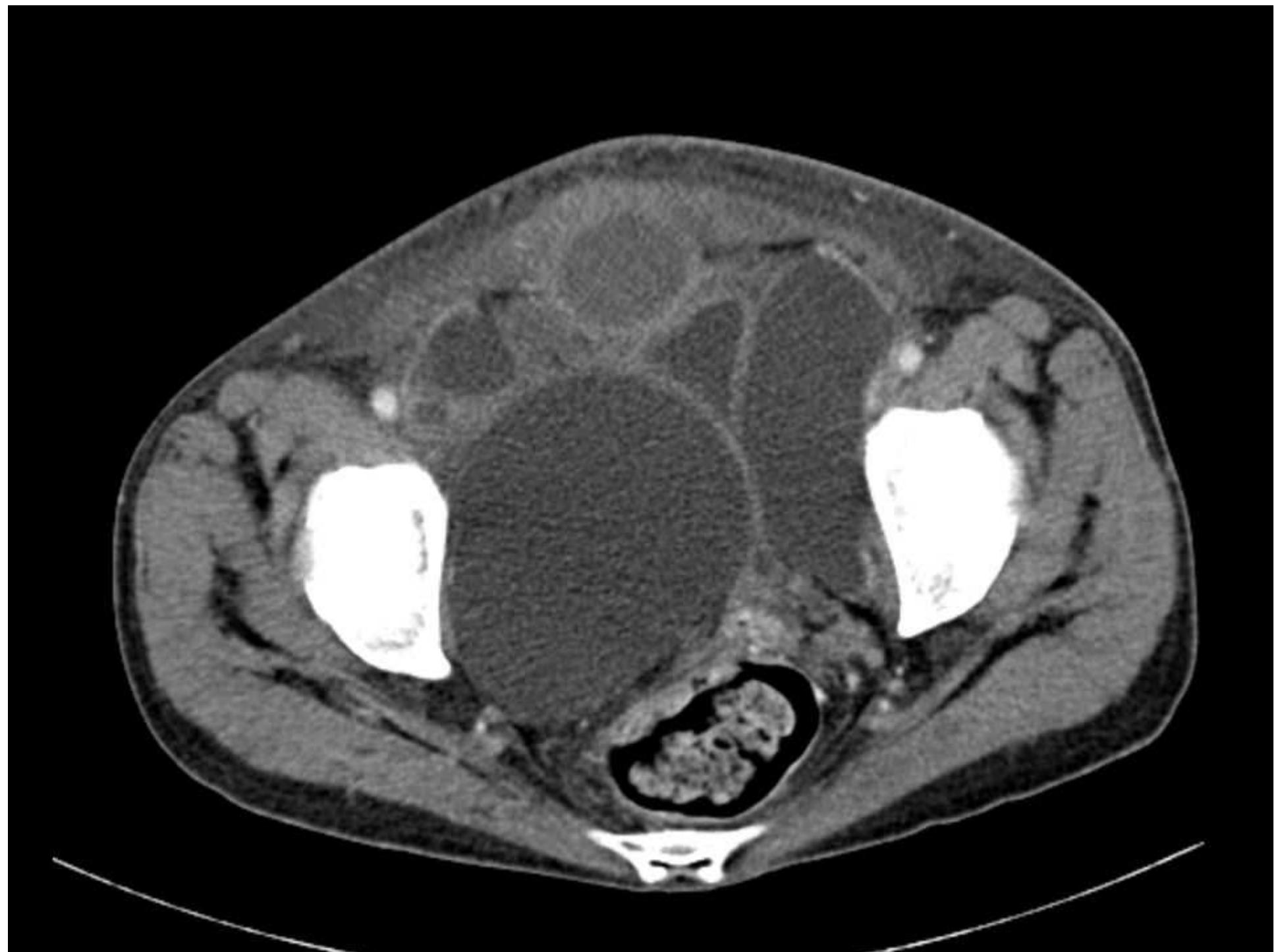














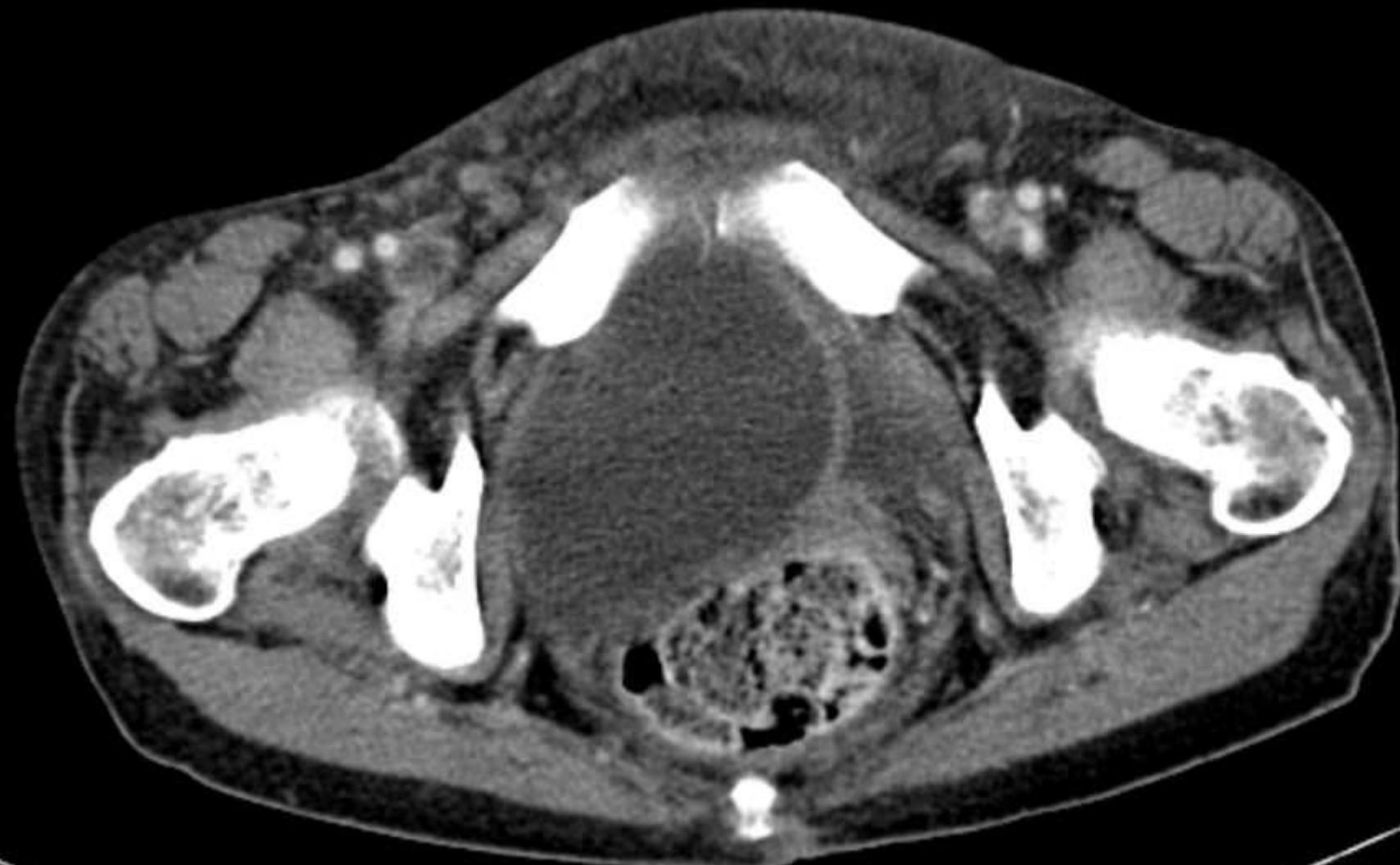


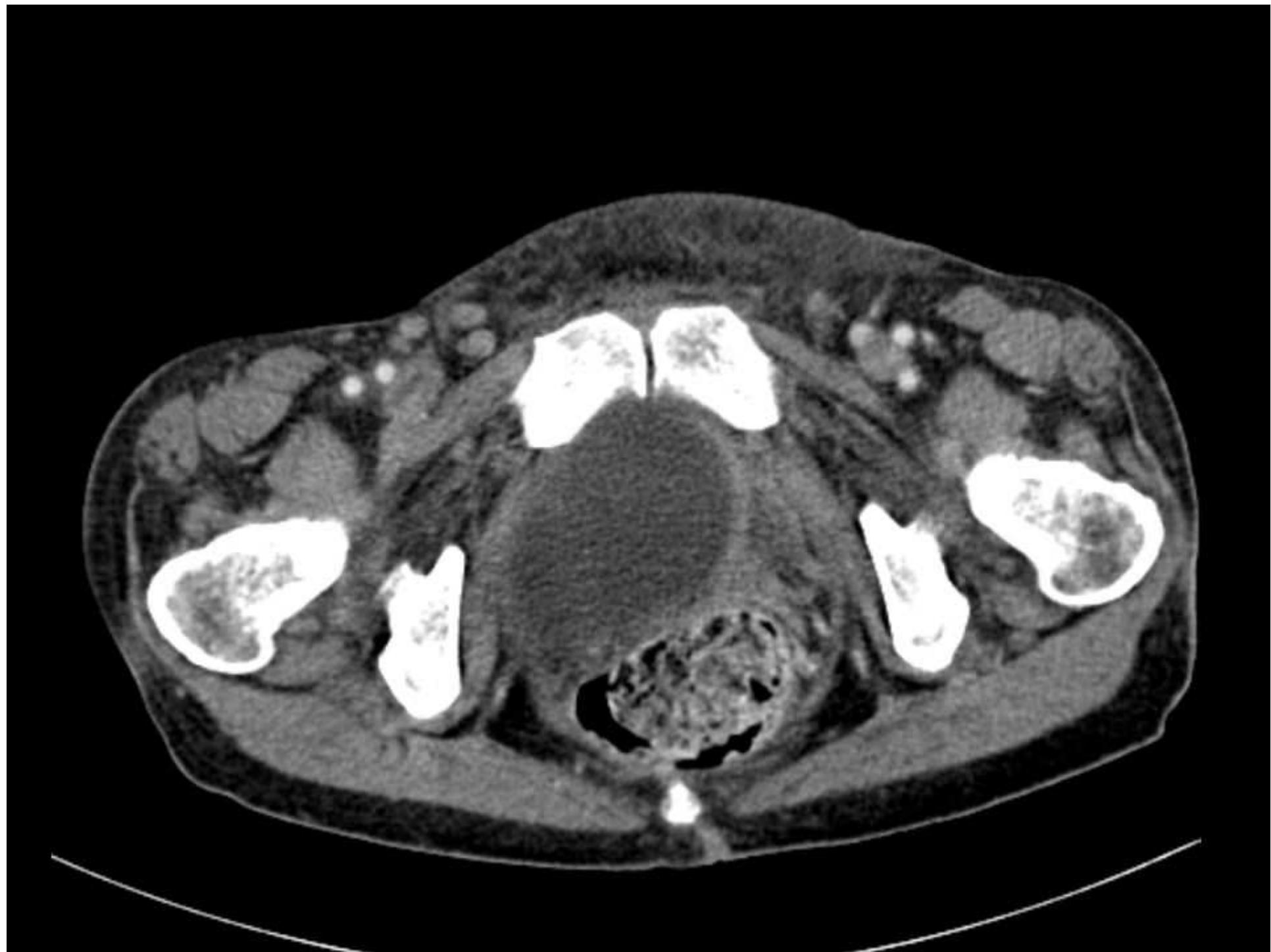
































症例: 62歳 女性

- 術後、両側の内腸骨領域にlymphocele 出現
 - 両側の水腎症を合併
- 下肢深部静脈血栓症 (IVC内にも血栓あり)



治療方針

- ✓ 両側のlymphocele
→ 経皮的ドレナージ術
- ✓ DVT (右下肢、IVC、左卵巢静脈)
→ 抗凝固療法

Lymphocele 経皮的ドレナージ術



- エコーチャンネル下に両側の内腸骨領域 lymphocele を18G PTC 針にて穿刺
- 右側に7Fr . 左側に 7. 5Fr pigtail cath.を挿入
 - 右側病変 : 350ml
 - 左側病変 : 180ml
 - 淡黄色、漿液性

ドレナージ術後経過

- 100-200ml/day 以上の廃液あり
 - 下肢の浮腫、両側水腎症は改善傾向
- ドレナージから2週間後に、lymphocele ablationを施行

Lymphocele ablation 1



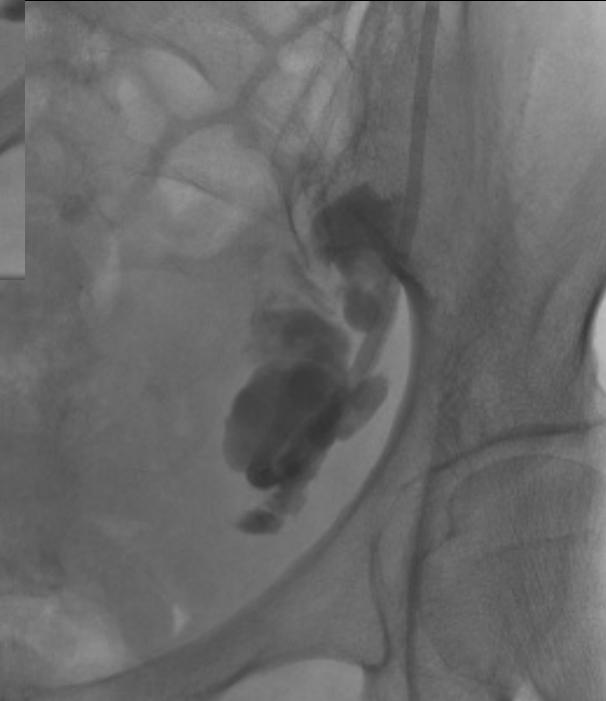
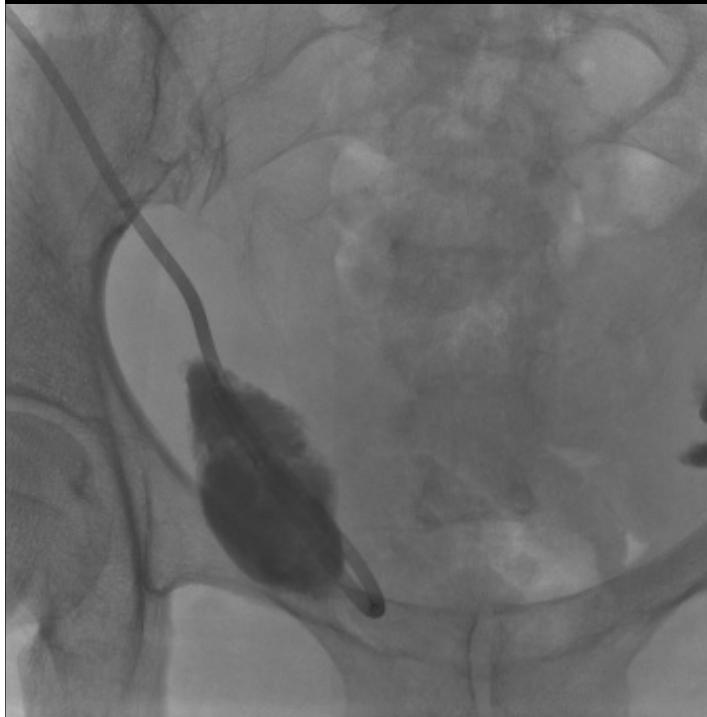
- 使用薬剤：
無水エタノール
- 注入後、体位変換を施行し、約10分間留置
- 使用量：
 - 右側 30ml
 - 左側 20ml

Lymphocele ablation 2



- 6日後に2回目の ablationを施行
- 使用量：
 - 右側 7ml
 - 左側 7ml

Lymphocele ablation 3



- さらに5日後に3回目のablationを施行
- 使用量:
 - 右側 7ml
 - 左側 5ml

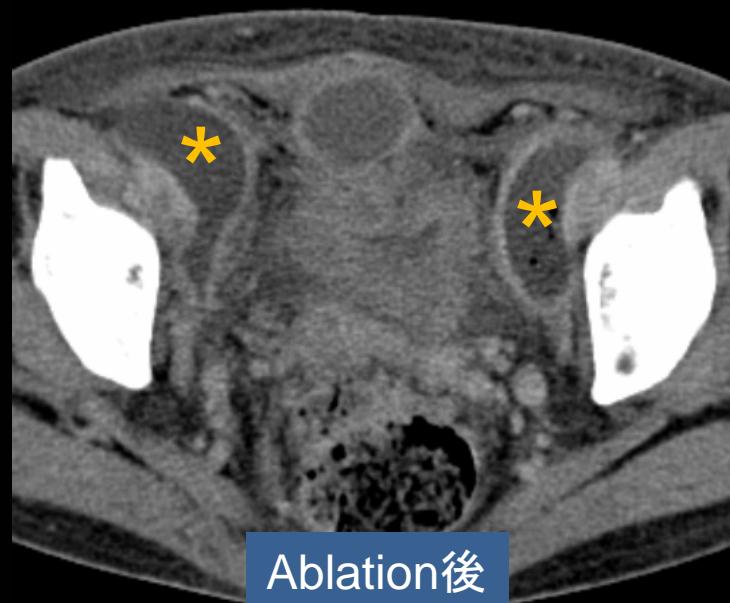
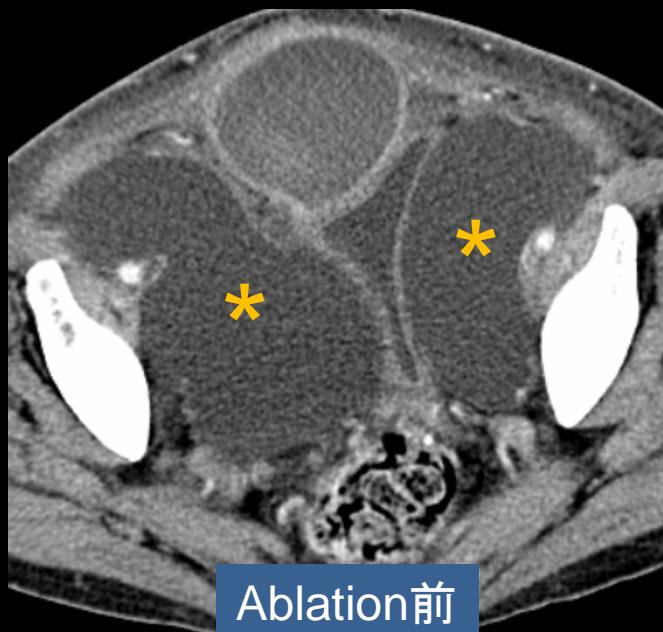
Lymphocele ablation

- 両側内腸骨領域のlymphocele に対し、計3回の ablationを施行

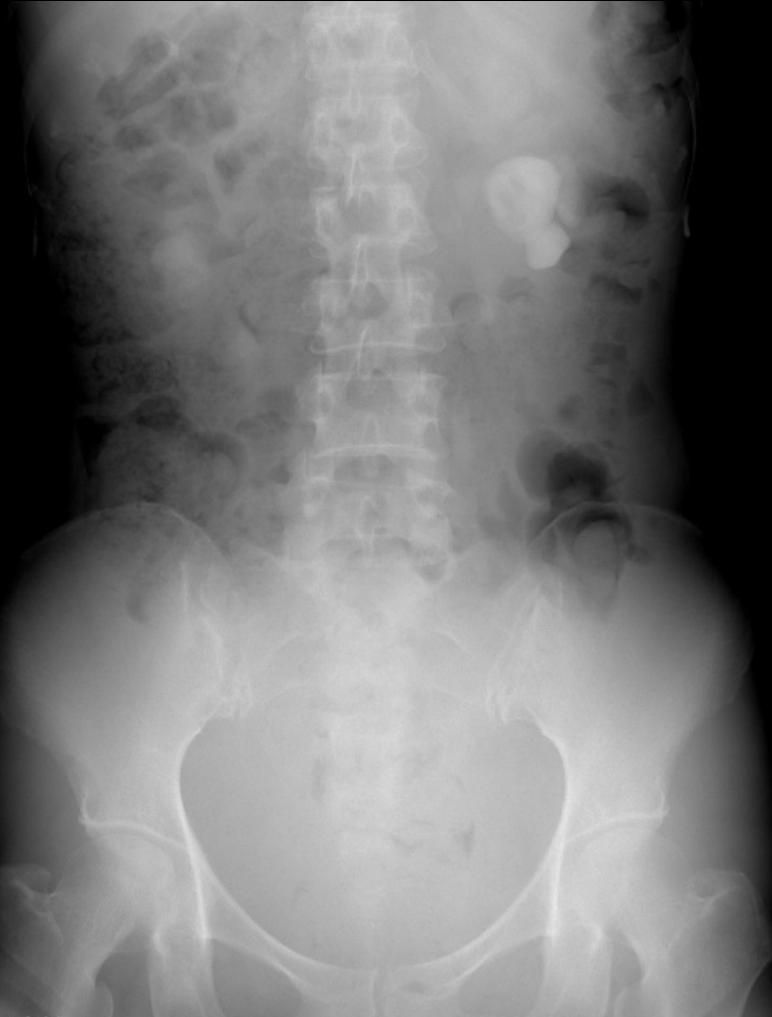
	右側 Ethanol/Cavity	左側 Ethanol/Cavity
1回目	30/350	20/180
2回目	7/20	7/20
3回目	7/10	5/5

Lymphocele ablation 後経過

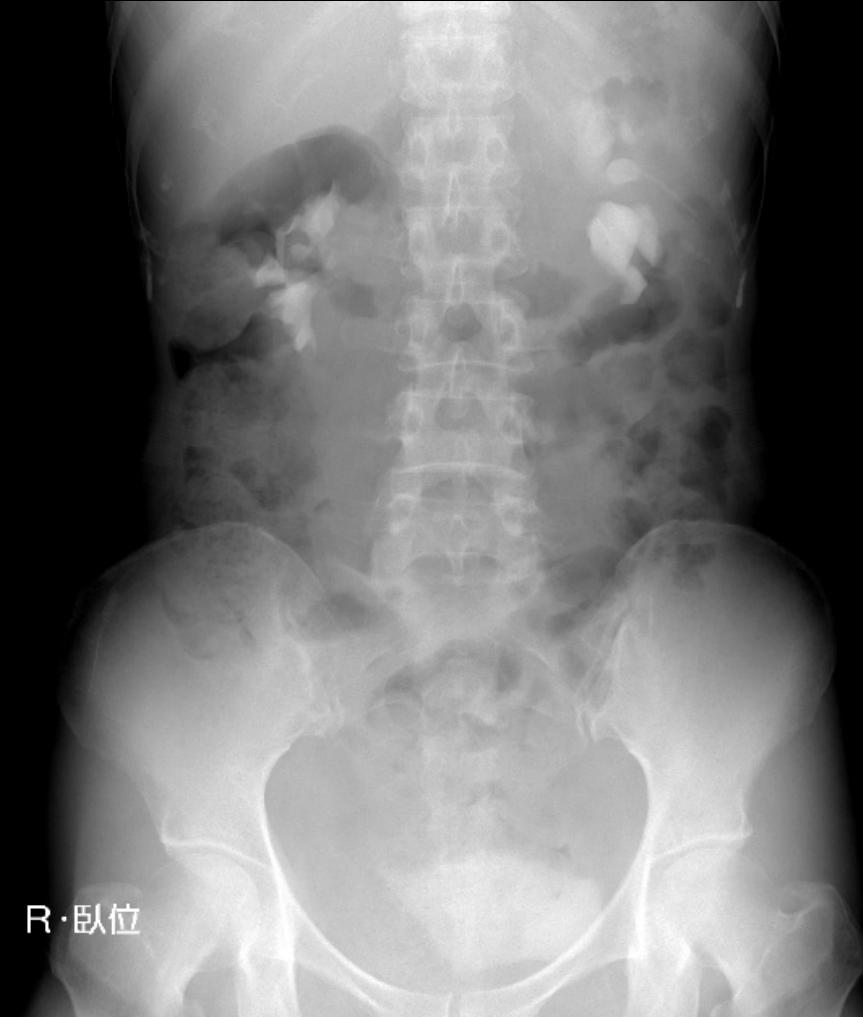
- 合計3回の ablation 後
 - 右側からは廃液がほぼ消失
 - 左側は20ml/day程度まで減少
- 両側のドレーンチューブを抜去、退院



Lymphocele ablation 後経過



Ablation前



Ablation後

R・臥位

Lymphocele

- リンパ管の断絶が原因となり生じる
- 婦人科術後や腎移植術後に合併
 - 婦人科悪性腫瘍術後 2-32%
 - 腎移植後 0.6-27%
 - 泌尿器科悪性腫瘍術後 0.7-27%

CVIR 2007: 30; 237-40
EJR 2005: 55; 340-54

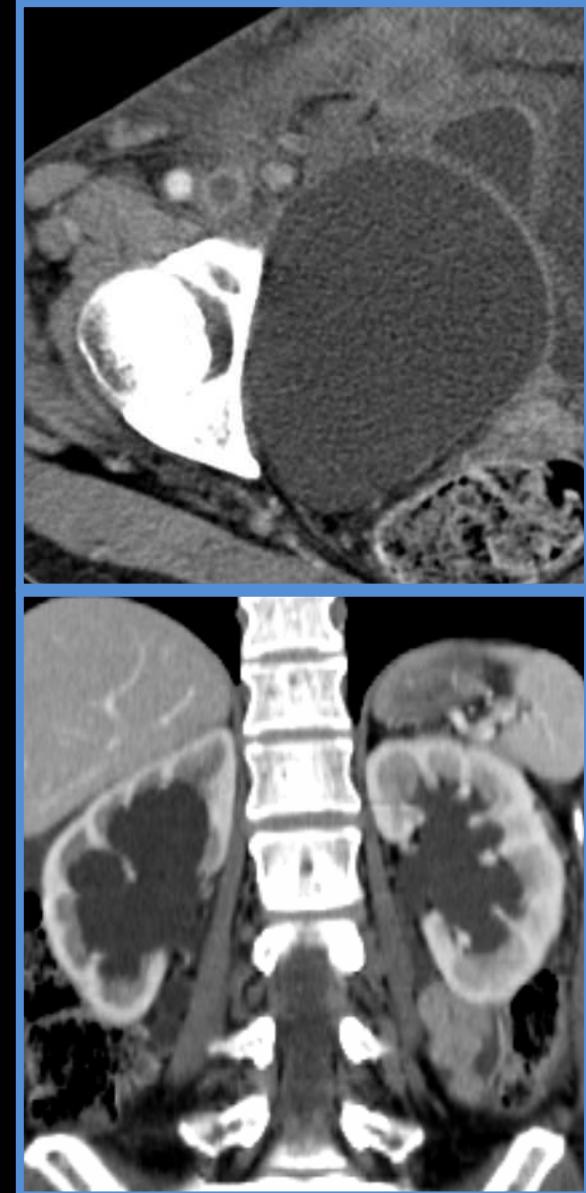


Lymphocele

臨床症狀

- 無症狀
- Mass effect
 - 水腎症
 - 下肢浮腫
 - 便秘
 - 疼痛
 - 頻尿
- 感染

EJR 2005: 55; 340-54

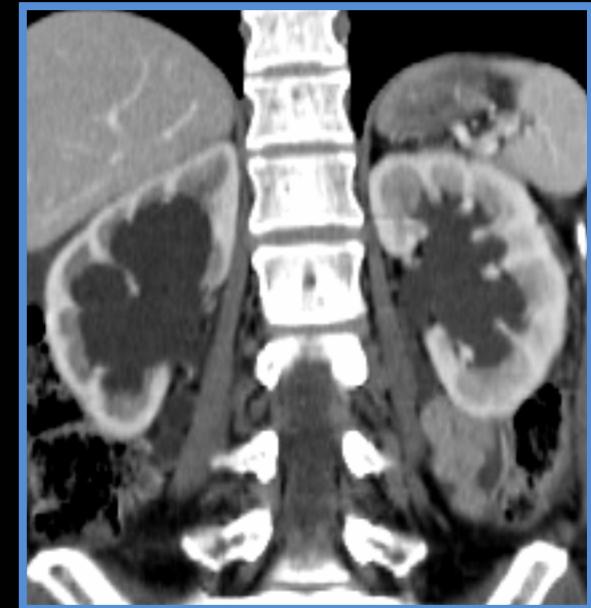


Lymphocele

治療

✓ 有症状性 lymphocele

- 外科的な開窓術
- 経皮的吸引・ドレナージ
- ドレナージ + ablation



AJR 1997; 169: 433-7

Lymphocele ablation

Ablation薬剤

テトラサイクリン

ドキシサイクリン

無水エタノール

ブレオマイシン

ポピドンヨード

fibrin glue

Procedure

留置チューブから、無水エタノールを注入

- lymphocele容積の10-50%
- 10-30分間留置(体位変換)
- 可及的に回収

Lymphocele ablation

有効性: 62.5-100%

– 無水エタノール	88-97%
– ポピドンヨード	62-89%
– テトラサイクリン (ドキシサイクリン)	81-93%
– ブレオマイシン	100% (n=4)
– Fibrin glue	75%

- 大きな病変(>150ml)では複数回の ablation術が必要

Lymphocele ablation

合併症

- ポピドンヨードで尿管狭窄の報告
 - 腎移植後の影響？
- 感染 9-15%
 - 予防的抗菌薬は必要ない
(移植後の免疫抑制症例を除く)
- 瘢孔からの薬剤漏出
- 薬剤アレルギー

Lymphocele ablation

お値段(1 sessionあたりの薬価)

- 無水エタノール \$ 0.44
- ポピドンヨード \$ 0.45
- テトラサイクリン \$ 5.4
(ドキシサイクリン)
- ブレオマイシン \$ 500

保険適応は???

質疑応答

- ・婦人科術後。難治性リンパ嚢胞に対しドレナージを行った症例
- ・質問：保険申請に対しては何で請求すればいいのか。
- ・回答：ドレナージの点数しか請求出来ない。
- ・質問：焼却物質は何を使うのか。
- ・回答：大田原では硝酸銀溶液を専ら使っている。局方であり薬剤部ですぐ作ってくれる。